

除災招福の護符 建物のお守りについて



●Answer

沖縄市・コザ山 球陽寺 前住職
帰依 龍照 (きえ りゅうしょう)



住宅を新築しようと、建築会社と打ち合わせ中です。父が「新築には『シランカ』を置きなさい」と横から口を挟むのですが、設計士さんも私も意味が分からず困惑しています。父は何が言いたいのでしょうか？

(那覇市・Kさん)



「『シランカ』を知らんか？」(笑)。すみません、おやじギャグでした

(汗)。Kさん、お父様のアドバイスは、実に意義深いですね。『シランカ』ではなく多分、『シビランカ』のこととおっしゃっているのだと思います。漢字では、紫微鑿駕(しびらんか)と書きます。紫微鑿駕とは、道教(どうきょう)の紫微大帝(しびたいてい・正式名称: 中天北極紫微太皇大帝(ちゅうてんほっきょくしびたこうたいてい))という、万物(ばんぶつ)を司(つかさど)る紫微宮(しびぐう)の長神(おさしん・代表的な神)が、天より自らを鑿駕(らんか)という御神輿(おみこし)に乗(の)りさせ、人々の住宅をめぐり多くの幸せを与えるとする、『天官賜福紫微鑿駕思想(てんかんしふくしびらんかしそう)』に由来(ゆらい)します。この天官賜福紫微鑿駕(てんかんしふくしびらんか)を略(りやく)して、紫

微鑿駕(しびらんか)といひます。

その他の説には、紫微鑿駕(しびらんか)とは火を食(た)べる女性の諱(いみな)とし、紫微鑿駕(しびらんか)の文字を住宅に安置(あんじ)すると、火災(かさい)に遇(あ)わないうとする説(せつ)と、頑丈(がんじょう)な建物(けんぶつ)(けんぶつ)を数多(かず)く施工(せいこう)した大工(だいこう)の名棟梁(めいとうりょう)の諱(いみな)とし、紫微鑿駕(しびらんか)の文字を住宅に安置(あんじ)すると、除災(じょさい)招福(しょうふ)(じょさいしょうふ)に恵(めぐ)まれるとする説(せつ)などがあります。

昔(むかし)、沖縄(okinawa)の木造住宅(きぞうたけ)では、紫微鑿駕(しびらんか)または、天官賜福紫微鑿駕(てんかんしふくしびらんか)を木札(きふだ)に扁額(へんがく)へんがく・横書(よこがき)し、または、縦書(たてがき)し、天井裏(てんじょううら)の母屋(もや)と桁(けた)の交(ま)わる付近(つきぢま)にある、棟木(むなぎ)という屋根裏(やぐら)の最上段(さいじょうだん)の材木(ざいぼく)に取り付(つ)けていました。直接(じきく)接、棟木(むなぎ)に筆(ふで)と墨(すみ)で記載(きざい)していたということも耳(みみ)にしたことがありま

す。一方(いつぱう)で、沖縄(okinawa)の建築様式(けんちくようしき)は、戦後(せんご)後、大きく様(よう)変わりし、昨今(けつこん)ではコンクリート住宅(こんくりーとたけ)が主流(しゅりゅう)の時代(じだい)を迎(むか)えています。ニアギ(棟上げ)という上棟式(じょうとうしき)も、実際(じっさい)には、材木(ざいぼく)を棟(むね)に上(あ)げるといふ工程(こうりょう)はなくなりつつあるよう(よう)です。

さて、Kさん(かさん)からの相談(さだん)に戻(かえ)りますが、現在(げんざい)、お考(こう)え中の住宅様式(たけようしき)が、木造住宅(きぞうたけ)の場合(ばあひ)、お父様(おとうさま)のアドバイスの通り(とおり)、棟木(むなぎ)に紫微鑿駕(しびらんか)を安置(あんじ)することは、温故(おんこ)知新(しん)として、とても素晴(すば)らしいことだと思(おも)います。また、コンクリート住宅(こんくりーとたけ)の場合(ばあひ)、設計士(けいけいし)さんと打ち合わせ(うちあわせ)して、天井裏(てんじょううら)などのしかるべき場所(ばしょ)に、紫微鑿駕(しびらんか)を安置(あんじ)することは、私が担当(たうとう)する起工式(きこうしき)でも、多く耳(みみ)にする事例(じがい)です。天井裏(てんじょううら)ではなく、掛け軸(かけしき)として、床(とこ)の間に安置(あんじ)したり、扁額(へんがく)として、イチバンジャー(二番座)に掲(か)げている住宅(たけ)も拝見(はいけん)したことがありま

す。写真(しやしん)の建築会社(けんちくかいしゃ)では、紫微鑿駕(しびらんか)の木札(きふだ)を、施工代表(せいこうだいひょう)から施主(せしゅ)に手渡(てわた)しすることに

より、沖縄(okinawa)の建築儀礼(けんちくぎれい)を畏敬(おそ)敬(けい)(いけい)していま(いま)す。デンサー節(でんさーせつ)に『うとうややーぬ なかばしら(男性(なんせい)は住宅(たけ)の大黒柱(だいこくちゆう)』という歌詞(かし)があるのは有名(ゆうめい)ですね。この大黒柱(だいこくちゆう)は、ご存知(ごぞんじ)のようにそれぞれ(それぞれ)の柱(ちゆう)に支(た)えられていま(いま)す。ご家族(ごけぞく)の柱(ちゆう)・住宅(たけ)を新築(しんちく)すること

は、Kさん(かさん)が大黒柱(だいこくちゆう)として、身近(みぢか)なご意見(ごいけん)に感謝(かんしゃ)の気持ち(きもち)を持つ(も)つ機会(きかい)でもありま(ありま)す。Kさん(かさん)の住宅新築(たけしんちく)は、お父様(おとうさま)やご家(いへ)・ご親族(ごけぞく)のグスージ(お祝い)でもありま(ありま)す。今(いま)まで、『なかばしら』として頑(ご)張(か)られてきた経験(けいけん)豊富(ふじゅう)なお父様(おとうさま)からのご意見(ごいけん)は、Kさん(かさん)が、今後(こんご)、『なかばしら』として住宅(たけ)を新築(しんちく)する、とても貴重なアドバイス(あどばいす)となること(こと)でしょう。お父様(おとうさま)のアドバイス(あどばいす)に感謝(かんしゃ)をしつ(しつ)つ、ご一緒(ごいっしょ)に設計士(けいけいし)さん(さん)との打ち合わせ(うちあわせ)ができる(できる)素晴(すば)らしいですね。

一見(いちけん)、悩(なや)ましいように思(おも)われる異なるアドバイス(あどばいす)も、その分(ぶん)、深い内容(ふかい内容)になること(こと)が多い(おほい)ものです。両方(りょうぱう)に耳(みみ)を傾(かた)められている(ら)ことも、自身(みづか)の心(こゝろ)の広(ひろ)さをあらわ(あら)わして、素晴(すは)らしい経験(けいけん)とな(な)ったこと(こと)でしょう。同じ(おな)じ様なこと(こと)で悩(なや)まれる方々(かたがた)へのカラハニー(羅針盤)として、この貴重(きんじゆう)な経験(けいけん)を語り継(つ)いであげ(あげ)てください。



施工業者から施主へ(サイアスホーム・波平家/写真提供)